

教材1 「A村村長選挙の選挙公報づくり」

この教材は、A村(架空の村)の概況、人口・世帯、産業、基盤整備、村民所得・村財政、その他についての解説文を読んで、村の特徴や地域課題、政治的課題等を把握し、そのうえでグループの代表が村長選挙に立候補するための政治政策(マニフェスト)を策定し、選挙公報として発表し合うという設定になっています。

そして、A村の地域課題や社会的、政治的課題について討論し合う過程で生みだされるアイデア豊かな政策提案を通して、政治的判断力や政治・選挙への参加意欲を向上させることをねらいとしています。

1 趣旨

行政や地域づくり及び政治・選挙への参加意識を高める。

2 テーマ

「政治・選挙と暮らしとのつながりを考えてみよう」

— 住みたくなるような“村”をつくろう —

3 所要時間

3時間程度

4 主な活動内容

- ・ 解説資料の読み取りと協議
- ・ マニフェストの策定
- ・ 選挙公報の作成
- ・ 発表
- ・ 評価
- ・ 学習のふりかえり、まとめ

5 演習要領

(1) A村を住民の視点で変えていこう！

この教材では、各グループの代表がA村の村長選挙へ立候補するための「選挙公報」を作成します。

参加者に、グループを単位としてA村の村長候補になっていただくと同時に、身近な問題から村全体の問題について自由に意見を出し合い、よりよいA村にするための話し合いをしていただきます。

個人としてはA村の住人として、自分達の考えた政策と他の候補者の政策を比較検討し、「村の将来を任せるのはどの候補者がよいのか」について討論を交わし、判断をしていただきます。

実際の選挙では、選挙ポスターの掲示や選挙カー等での選挙運動が行われますが、この研修では候補者の政策を住民に伝えるための「選挙公報」を作成します。その作業過程で、参加者一人ひとりの村づくりについての思いや意見を交わし合い、グループとしての意見をまとめます。

政策を立案し、「選挙公報」を作成するといっても難しく考えることはありません。参加者が日頃生活で不便を感じたり、不満に思ったりすることなどを思いおこし、それらを改善する方法を考えてみる・・・そこから政治への参加がはじまり、政策につながっていきます。

そして、その政策を周りの人々にうまく伝えられるよう、目に見える形にすることが「選挙公報」を作成するということです。

これまでの政策や現実の政策にとらわれることなく、ブレインストーミングの要領で、自由な視点、自由な発想による村づくりの政策をかかげてください。

- 話し合いの基本ルール
- ・自由に思いつきを出すこと。
 - ・たくさんの思いつきを出すこと。
 - ・他の人の思いつきを批判しないこと。
 - ・他の人の思いつきからも連想すること。

この教材では、あくまでも架空のA村のまちづくりについて話し合いをしますので、実際の都道府県や市区町村の状況を参考にすることはかまいませんが、あくまでも課題に沿った形で「選挙公報」を作成してください。

(2)準備する物

①資料

- ・資料1「年齢別投票率」21頁
- ・資料2「A村の現況」22頁
- ・資料3「意識調査・選挙関心度、投票に対する考え」24頁
- ・資料4「B町の現況」25頁

②ワークシート

- ・ワークシート1「選挙公報作成ノート」28頁

③資材等

- ・ホワイトボード(記入用具、マグネット等) — 各グループに1枚
- ・模造紙(選挙公報) — 各グループに2枚
- ・台紙(模造紙の下に敷くもの) — 各グループに1枚
- ・付箋紙(縦横7.5cm程度 黄色、ピンク色、青色の3色) — グループ数分
- ・サインペン(中字用 黒色) — 人数分
- ・サインペン(太字用 黒色、赤色、青色の3色) — 各グループに1セット
- ・セロハンテープ — 各グループに1個
- ・よくできましたシール(付箋紙などで代用可) — 人数分
- ・感想文用紙(主催者作成)

(3)構成

- | | | |
|-------------------|--------|------|
| ①アイスブレイク | (10分) | |
| ②課題、内容、資料、進め方等の説明 | (15分) | |
| ③活動 | (100分) | |
| ④発表会 | (30分) | |
| ⑤評価 | (10分) | |
| ⑥学習のふりかえり、まとめ | (15分) | 計3時間 |

(4)進め方

①アイスブレイク(10分)

アイスブレイクは、研修参加者をリラックスさせ、触れ合いを深め、恥ずかしがらずに積極的にワークショップに参加する意欲を高めます。選挙クイズやジャンケンゲーム、川柳、政治・選挙に関わる最新ニュース(新聞やテレビの記事、各地の出来事)等を、予定時間や研修参加者の年齢、人数、開催地域等を勘案して用意しておくことが望まれます。

なお、アイスブレイクの技法を身につけることがねらいではないことから、ことさら時間をかけすぎないように配慮することも大切です。

②課題、内容、資料、進め方等の説明(15分)

演習要領(1)、資料2「A村の現況」、ワークシート1「選挙公報作成ノート」を用いて、分かりやすく短時間で説明するように工夫します。あわせて、投票率の現状(資料1)なども紹介します。

③活動(100分)

ワークシート1を使います。

ア グループ分けと役割分担

なるべく所属団体、居住地域、職業、男女、年齢等がばらけるように、5～6人程度のグループを作ります。自己紹介の後で、司会者(グループでの進行係)、記録係、発表者を決めます。

イ A村(架空の村)の現状把握

まず、各人がA村の現況(資料2)を読んで、「概況」「人口・世帯」「産業」「基盤整備」「村民所得・村財政」等の分野別に問題点を抽出し、その解決策を考えます。それらは、続いて行なわれるグループ内での話し合いの土台となるので、自由な発想で、質より量を心がけるようにします。考えたことは、付箋紙に書き留めます。

ウ 分野別問題点・解決策、優先順位の発表と検討

各人が抽出した問題点や解決策を、発表し合い、効果や優先度などを検討してそれぞれに順位をつけ、グループとしての意見にまとめます。この作業は、KJ法(→8頁)の要領でアイデアや意見を図解していきます。完成したら、模造紙に貼り付けた付箋紙が落ちないように、セロハンテープで固定します。

各人はグループの意見をワークシート1「選挙公報作成ノート」にまとめ、記録係はホワイトボードに書き出します。

エ 理想とするA村のイメージとそれを実現するための政策を立案

まとまった意見をもとに、グループとして重視していく分野、そうでない分野を順位付けし、理想のA村のイメージを確定し、スローガンを作成します。スローガンを実現する政策を立案していきますが、理想を実現するための政策が落ちていないか、力強い提案になっているかなどを吟味し、特色ある主張ができるようにします。

また、発表に備えて、自分達の政策に対する想定問答と、他の立候補者への質問を考えておくことも必要です。

オ 政策を掲げた「選挙公報」原稿の作成

自分達の意見を伝えるためには、まず興味を持って見てもらうことが大事なので、文字の大きさや配置などを工夫し、見やすく、わかりやすいものを作成します。

④発表会(30分)

各グループの選挙公報をホワイトボードなどに張り出した後で、予め抽選等で決めておいた順番に従い、各グループの発表者が村長選挙の候補者となって政策を発表し、聴衆(他のグループ)からの質問に答えます。

各候補者の発表時間は厳守です

ア 基本政策(目指す村づくりの方向)

グループの政策目標(スローガン等)を掲げ、グループが考える基本的な政策、もしくは最も重視する政策を、現状と解決策とをあわせて発表します。

イ 優先分野

まず、各分野の順位付けに対する考え方を発表し、次に、まとめた各分野の順位について、当該分野を重視する理由を発表します。また、重視しない分野については、その影響も発表します。

ウ 自由発表

さらに、「特にPRしたい政策」、あるいは「全く別のPRしたい政策」についての発表も認めることにします。

⑤評価(10分)

最も優れていると思うグループの政策(選挙公報)に、各参加者が「よくできましたシール」を貼り付け、その数を集計して順位を決めます。ただし、自分のグループの選挙公報には貼り付けないことを事前に約束しておきます。

⑥学習のふりかえり、まとめ(15分)

研修をふりかえりながら、「気づいたことの共有」と「共有事項の確認」をして研修成果をまとめ、さらに、研修後の活かし方等を約束し合います。

- ・年齢別投票率(資料1)、意識調査の結果(資料3)などを示します。
- ・感想文作成、後始末、閉講式。

(5)役割

☆ファシリテーター(全体の指導)

ファシリテーターは、参加者一人ひとりの思いや意見をうまく引き出しながら進めることが大切で、特に次のようなことに留意します。

- ・分かりやすいプレゼンテーションを心がけ、参加者が目的を十分に理解して取り組めるように配慮します。
- ・共感的、受容的な雰囲気をつくりながら、柔軟な姿勢で進めます。
- ・参加者が主体的に参画でき、参加者同士のコミュニケーションが図られるように気を配ります。

☆司会者(各グループ)

- ・参加者の意見がポイントから外れないように進めながら、できるだけ多くの意見を引き出します。
- ・特定の人意見だけで討議が進んでいくことがないようにします。
- ・自分の意見や結論を押しつけないように気をつけながら進めます。
- ・討議内容をまとめながら進め、予定時間内で終了できるようにします。適宜休憩を取ってください。

☆発表者(候補者)

- ・発表したい事項をメモしながら、作業に参加します。
- ・グループとしての主張や提案を強調し、アピールします。
- ・配分時間内で発表を終えられるように、発表内容をまとめておきます。

☆参加者

- ・ 思いつきや推測の意見でもよいので、積極的に意見を出すようにします。
- ・ 討議が円滑に進むように司会者に協力します。
- ・ 発表者以外のグループメンバーが、質疑の時間に発表者の意見の補足を行うこともできます。
- ・ 自分達のグループと他のグループの政策を比較し、疑問な点は積極的に質問します。

☆助言者

ファシリテーターの他に、各グループに次のような役割を担う複数の助言者(選挙管理委員会職員又は明るい選挙推進協議会員)を配置すると、より充実した研修が期待できます。

- ・ 自己紹介や役割分担がスムーズに進むよう助言します。
- ・ 参加者の積極的な関わりや協力で、グループ内の意識が向上するよう助言します。
- ・ 作業手順を理解し、完成へのイメージが描けるよう助言します。
- ・ 資料の読み取りと分析、深まりのある話し合いができるよう助言します。
- ・ 効果的な表現を工夫しながら作業をまとめ、時間内に発表準備を完了させるよう助言します。

6 研修の充実と応用

- 演習内容を「選挙公報作成」の他に、「選挙公約(マニフェスト)作成」、「演説原稿作成」、「選挙ビラ作成」として研修を展開することもできます。
- 実際の選挙で作成、使用された「選挙公報」や「選挙公報原稿用紙」等を示して、「選挙公報」に対する理解を深めるとともに、「選挙広報」との違いを理解してもらう機会にもなります。
- 資料2「A村の現況」を、参加者に事前に送付し、一読しておいてもらうようにすると、一層効果的な展開が期待できます。
- 模造紙に貼り付けた付箋紙は、そのまま保存し、次回の研修でその成果を生かすことで、より完成度の高い研修を目指すことができます。
- ホワイトボードは、打ち合わせ時のメモに使いますが、時間等の都合で模造紙に清書できない状況になった場合には、そのまま「選挙公報(案)」として使えますし、カメラ等に収めて研修成果として持ち帰ることもできます。
- この教材は、各種選挙で投票を経験済みの成人を対象としていますが、青年等を対象とする研修では、はちまき・たすき姿で「立候補の演説」をさせたり、実際の「投票記載台」や「投票箱」等を使用することなどによって、本番同様の投票体験の場とすることもできます。

資料の補記修正等

○リアリティ

A村を、研修開催地の規模に合わせて“〇〇市”、“△△区”、“□□町”のように市区町村名を工夫したり、あるいは開催地に関わる資料を随所に挿入したりすると、より身近で具体的な話題が提示されることから、リアリティに富んだ政策論争や「選挙公報」の完成が期待できます。

○現況の設定項目

A村の現況についての設定項目(概況、人口・世帯、産業、基盤整備、村民所得・村財政、その他)の説明が、不足もしくは短くて使いにくい、あるいはA村の設定規模が開催市区町村の実態とかけ離れている、さらには、都市部の実情にはそぐわないなどという場合には、適宜、補記・修正してください。

その際に、政治・選挙に関する意識調査で用いられた以下の質問項目から、必要と思うものを選んで資料を作成することもできます。

○質問文

「今回の選挙でどのような問題を考慮しましたか。いくつでもあげてください」

○回答肢(回答数の多い順)

景気・雇用(64.3%)、年金問題(64.1)、医療・介護(59.8)、税金問題(36.5)、
少子化対策(32.4)、教育問題(31.3)、環境問題(25.4)、財政再建(25.3)、
所得格差(25.1)、物価(24.4)、政権のあり方(23.5)、行政改革(19.1)、
政治資金問題(16.5)、中小企業対策(15.8)、災害対策(15.8)、地方分権(14.1)、
防衛問題(12.6)、国際・外交問題(12.2)、治安対策(11.0)、農林漁業対策(9.6)、
憲法問題(7.8)、土地・住宅問題(6.4)、考えなかった(1.7)

(第45回衆院選に関する意識調査 平成21年10月調査 明るい選挙推進協会)

○B町町長選挙の選挙公報づくり

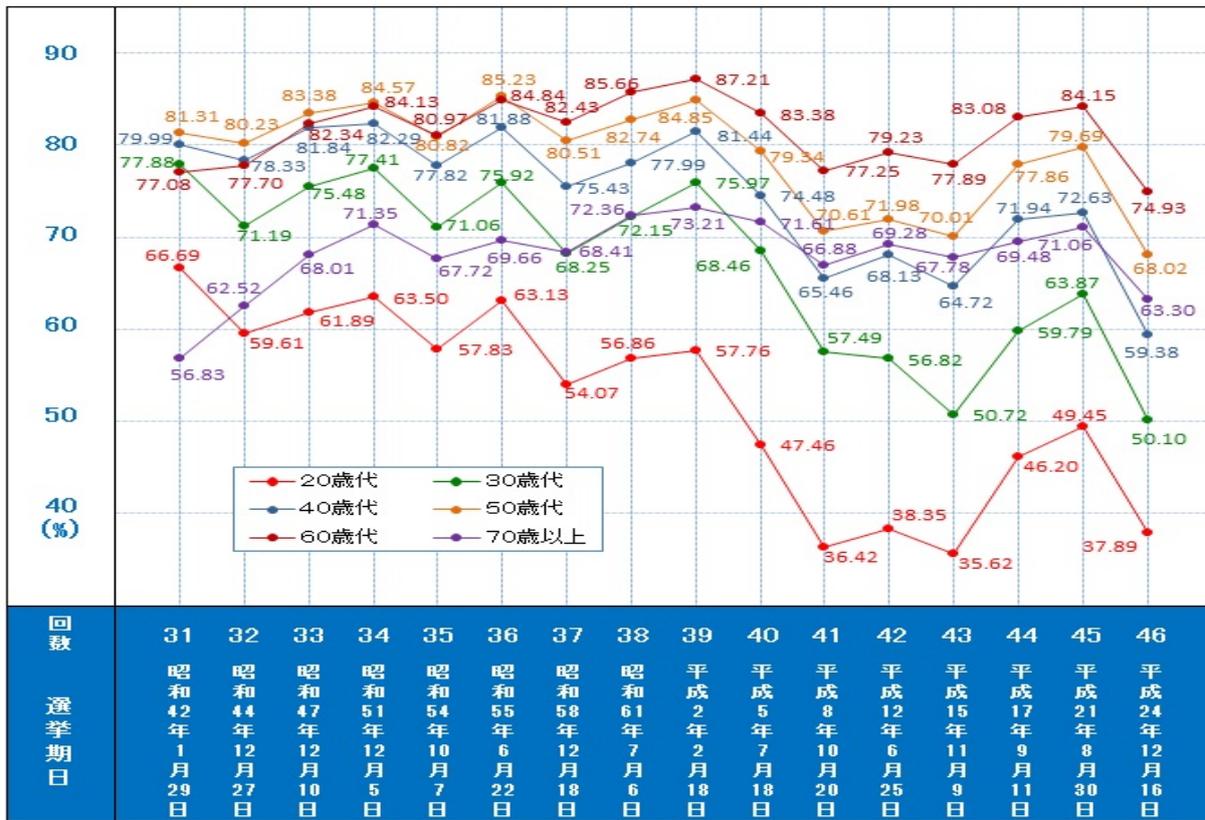
資料2「A村の現況」の条件設定を変えたのが、資料4「B町の現況」です。同規模自治体(町)での実施案として、また、研修時間を4～5時間程度確保できる場合等で活用してください。

○工夫

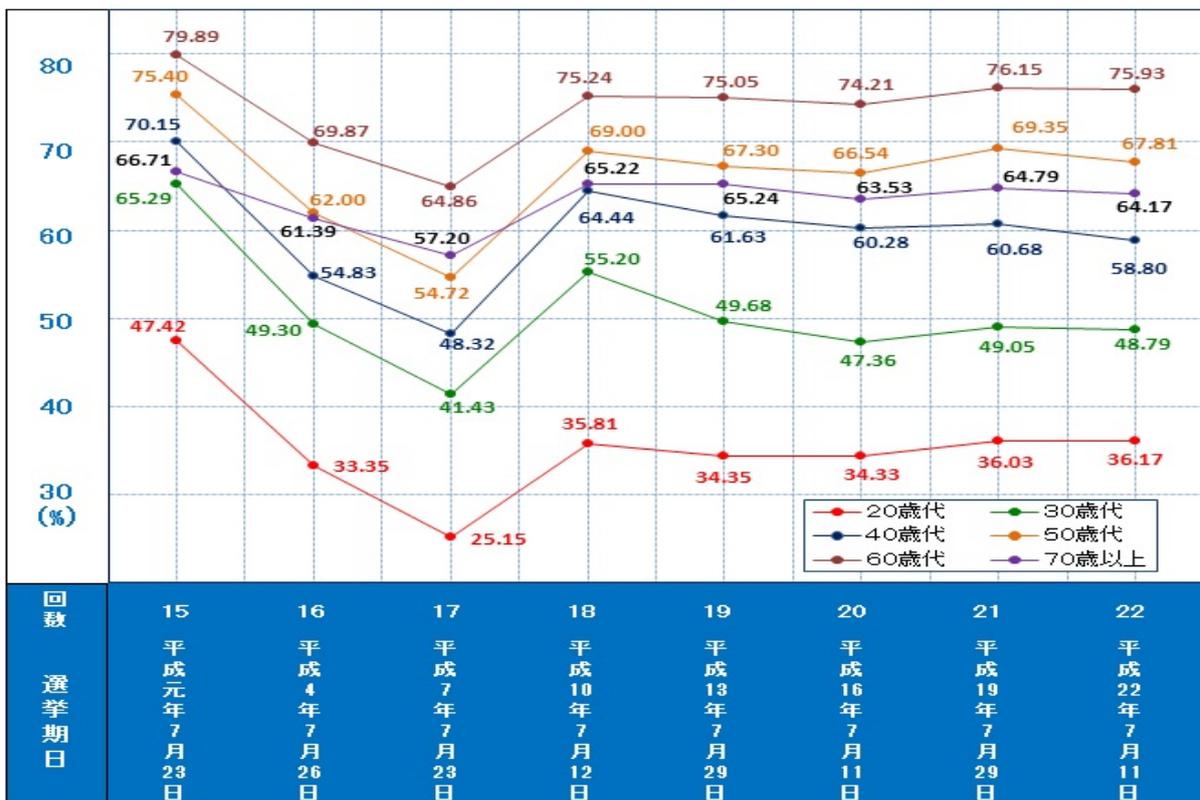
この他に、開催市区町村の特徴や地域事情、活動状況、研修日程等に応じた工夫を加え、研修参加者自らのアイデアでまちづくりをする興奮を味わわせ、さらには楽しみながら政治・選挙を論じ合う機会として設定してください。



<資料1> 年齢別投票率(衆議院議員総選挙)



年齢別投票率(参議院議員通常選挙)



<資料2> A村(架空の村)の現況

1 概況

A村は、面積約100平方km、耕地面積1,500ha、林野6,800ha、六甲田水系につながる溪谷や一部海岸線を含む変化に富んだ自然がある反面、平野部は農耕地にも恵まれている。名所としては、昔から村民の憩いの場となっている温泉「長生き湯」があり、また、最近発掘された三角山縄文遺跡があり、調査が進んでいる。

文化・スポーツについては、村内にある公立高校を中心にアーチェリーが盛んで、オリンピック出場者を輩出している。

2 人口・世帯

村の人口は1,475人。うち287人(19.5%)が65歳以上、15～64歳の生産年齢人口が965人(65.4%)、0～14歳の年少人口が223人(15.1%)となっている。農業離れに加え、雇用の場が少ないことや都会指向から、若者の流出が著しく、年少人口の減少傾向と老年人口の増加傾向が顕著となっている。世帯は、核家族世帯が48.7%を占め、単独世帯も18.5%となり、親子世帯が同居する世帯は32.7%となっている。

3 産業

村の主産業は稲作やだいこん、やまいも、銘柄のトマト「桃子」等の畑作や売り出し中の「あすなろ牛」があるが、経営規模は小さく、専業農家は17.5%、うち農業収入を主とする世帯(1種兼業)は26.4%にすぎない。また、沿岸漁業者もいるが現在、専業漁業世帯は皆無となっている。観光については、夏にハイキングや海水浴、釣り客等は訪れるが、産業といえるものとなっていない。最近、村の若者や有志によりホテルの里づくりやカブトムシの森づくりの取り組みが進みつつあり、遺跡発掘の動向も注目されている。

村の中心商店街も、市部郊外のスーパーマーケットや最近開通した国道バイパスの影響によりすっかり寂れ、国道沿にできた「道の駅」だけが唯一賑わっている。

役場や団体に勤務する以外の村民の多くは建設業に従事したり、誘致した工場で働いたりして生計をたてているが、不況のあおりで雇用が縮小し、最近では近郊の市部の商店、スーパーマーケットや流通、運搬等の従業員、パート等として通勤し生計を維持する世帯が多くなっている。

4 基盤整備

村の基盤整備は、耕地区画の整備、用排水路の整備、土層改良など農業基盤が急

速に改善されたが、農業経営を巡る諸情勢から、十分なメリットをもたらさず、負担金が重荷となっている。道路基盤については村道、農道等が整備され、また、国道バイパス開通により利便性が増したものの、産業基盤としては十分機能していない。逆に、バス路線の一部廃止等、村民の生活にはマイナスの側面もあり、小学校の統合や公共施設の運営難など課題が多い。下水道の普及率は20%程度と県平均の半分にも満たない。村の50周年記念事業として建設された多目的文化・スポーツ施設は、斬新な外観と優れた音響効果で評価は高いが、当初の目論見と異なり、利用が十分でなく、運営に窮している。

医療施設については、従前あった村の診療所が廃止されたため、不便を生じており、高齢者施設については最近、地元業者により老健施設が開所されたものの、待機者が多く、また、村社会福祉協議会運営のデイサービスセンターも、定員が少なく、村内のニーズを満たすに至っていない。

5 村民所得・村財政

1人当たり村民所得は県平均251万9千円に比し、180万円と非常に低い水準にある。村内には目立った娯楽施設等もないため、若者のみならず村民の消費活動は隣接する市部におけるものが中心となっている。

また、村財政は年間予算約30億円となっているが、公債費比率(村財政における借金返済経費の占める割合)は25.0%(県平均17.1%)、経常収支比率(地方税、普通交付税など毎年度の経常的な収入である経常一般財源が、人件費、公債費などの義務的支出にどの程度充当されているかを示す指標)は92%(県平均87.8%)となっており、不測の事態に備える基金も底をつく状況にある。

このため、民政安定と活性化のためには、若者が定住できるような産業の振興と村の財政再建が課題となっているが、未だその打開策が見いだせない状況にある。こうした中、最近になって中央資本の最先端技術による産業廃棄物処理・処分施設立地の話が持ち上がり、建設受注や税収、雇用効果等が期待できることから、推進を望む村民は隣接町村と綱引きをしているが、反対者も多く、村としては態度を決めかね、進展をみていない。

6 その他

先に行われた参議院議員通常選挙では、村民の関心も薄く、村選管では懸命の啓発キャンペーンを行ったものの投票率は53.91%と、県内市町村でビリから7番目という結果であり、中でも20代の若者の投票率は22.8%と極端に低いものであった。

注：表記中用いた固有名詞は実在のものとは関係ありません。

資料提供：青森県選挙管理委員会

<資料3> 意識調査・選挙関心度、投票に対する考え

今回の選挙について、あなた自身は、どれくらい関心を持ちましたか。
この中から一つあげてください。

選択肢	%
非常に関心をもった	58.9
多少は関心をもった	34.0
ほとんど関心をもたなかった	5.5
全く関心をもたなかった	1.4
わからない	0.2

あなたは普段、選挙の投票について、この中のどれに近い考えをもっていますか。
この中から1つあげてください。

選択肢	%
投票することは国民の義務である	57.5
投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない	23.0
投票する、しないは個人の自由である	19.1
わからない	0.4

(第45回衆院選に関する意識調査 平成21年10月調査 明るい選挙推進協会)

<資料4> B町(架空の町)の現況

1 概況

B町は面積約300平方km、耕地面積3,800ha、林野面積12,000ha、海に接する平野部と、世界自然遺産に登録された黒神山地及びこれに連なる起伏の多い台地部から成り立っており、町のほぼ中央を町のシンボルの岩本川が流れている。

人口は、戦後一貫して増加してきていたが、若者の流出や出生率低下などによって人口の減少が始まり、ピーク時には2万人を超えていた人口も、現時点では、1万5千人あまりとなっている。年代別の人口構成比も年少人口(0~14歳)が15.1%なのに対し、老年人口(65歳以上)は20.5%と、少子高齢化が進行している。

2 産業

B町の基幹産業は、農業及び漁業を中心とした第一次産業である。農業については従来、稲作が主流であったが、減反政策により畑作に転向するところが多く、現在ではメロンやスイカといった果物が、全国でも有数の生産量を誇るまでになっている。品質・生産量では他に引けを取らないものの知名度で劣るために、安定した価格を維持するのが難しく、あまり収入増にはつながっていない。それに近年の少子高齢化と相まって後継者が不足してきており、耕作放棄される農地が後を絶たず、荒れ地化し問題となってきている。若い後継者がいる農家でも農業だけで生計を立てるのが難しいために兼業化し、高い品質を維持するのが困難となっている。

漁業については、以前は近海でも豊富な魚種を背景に一年を通して一定の漁獲高があったが、乱獲の影響からか漁獲高は減少傾向にあり、それに伴い収入も減少してきている。そのため、資源保護のため操業の期間を制限したり、近海でのほたて貝の養殖や岩場を利用したウニ・アワビなどの養殖など新たな試みがなされている。その結果、魚種・数量ともにわずかながら回復してきており、養殖による生産も年々増加してきているなど効果が現れてきている。しかしながら、操業制限は、その間の収入を得ることができなくなるものであり、また、本格的に養殖事業を開始すると、大規模な設備が必要となるなど問題もある。

近年郊外へ中央資本の大型スーパーマーケットが進出したことにより、周辺市町村からの来客もあり賑わいが出てきている。一方で、もともと中心地であったあかもり駅を中心とした商店街は、年々寂れてきてシャッターが目立つような状況になっている。町の主な雇用の場はこのスーパーマーケットが最大のものであり、その他は地元建設業数社や誘致した小規模の電子部品工場程度であり、町内で働きたいという人の数に比べて、雇用の場は少ない。また、最近では、中央資本の経営状況の悪化が表面化し、スーパーマーケット自体の存続も危うい状況となっている。

3 文化・観光

B町には、県が建設した美術館がオープンしたばかりであり、世界で初めて公開する作品を展示するなど、滑り出しは上々といえる。オープンして日が浅いこともあり、美術館の成否は今後の運営次第といえる。

観光面では、海水浴場や郷土の文豪の生家や古い寺社、豊富な湯量を誇る温泉、世界自然遺産の黒神山地をはじめとする広大な手付かずの自然など、数々の地域資源には恵まれているが、それを十分に活用しているとはいえない状況である。

大きな船山車が繰り出す神社の夏祭りは、北前船交易ゆかりのものとして有名で、同時期に行われる花火大会とも併せて近年は知名度が徐々に上がってきており、観光客も年々増加してきている。年間にB町を訪れる観光客の約半分がこの時期に集中しており、絶大な集客力を誇っている。

宿泊施設は民宿、旅館数軒のほか結婚式等にも利用されるホテル一軒があるが、訪れる観光客に比べると受入態勢は十分整っているとはいえず、観光客の大半は日帰り若しくは、周辺の他市町村に宿泊することになる。

祭りの時期には町は大賑わいとなる反面、それ以外の時期にはまとまった集客はなく、観光産業を継続していく上で大きな支障となっている。

4 インフラ

B町には、海岸線から中心部を経て、隣接の市へとつながる鉄道があり、中心部に駅が設置されている。近年隣接の市に新幹線が開業したことにより、首都圏へのアクセスが飛躍的に向上した。中心部にある駅には新幹線に接続する特急も停車することから、利用者は増加してきており、B町を訪れる観光客の多くは鉄道を利用している。

B町の道路網については、海沿いに国道が近郊の市部から延び、山村部へは同国道に接続する県道により結ばれている。これらが、産業・生活両面で町の幹線となっている。最近国道バイパスが完成し、隣接の市部とのアクセスが更に改善され、従前の時間の半分で移動することが可能になった。このように国道及び県道については幅員も十分で整備は進んでいるが、このほかの各集落内及び各集落間をつなぐ町道及び農道は整備状況にばらつきが多く、狭い道路や見通しの悪い道路が現在もまだかなりの場所で見受けられる。

最近では町民の移動手段は自家用車が中心になっているが、車を使用していない人の利便を図るため、公共交通機関として民営のバスが各集落間及び中心部をつなぐ足として運行しているが、典型的な赤字路線となっていることから、民間業者からは廃止を打診されている。

冬のB町は雪が多く、町では業者に委託をして除雪を行っているが、大量の降雪があった日には道路事情も相まって、大型機械による除雪を行うことができない地

域があり、日常生活に支障を来すこともたびたびある。

5 医療・福祉

B町医療機関については、町内にある公立病院が以前から地域の病院として中心的な役割を果たしてきたが、慢性的に医師不足となっていることから、科目によっては診療日が限られるなど、満足な医療を受けられない場合もある。そのため、最近では道路状況が改善されていることから、近隣の市民病院に車で通院する人も多くなってきている。

公立病院は大幅赤字を抱えていることから、周辺の公立病院との統廃合という話も挙がっていて、無医町化の恐れも出てきており、町内で適切な医療を受ける機会の確保が難しくなっている。

福祉面では、保育所は各集落にまんべんなく配置されており、周辺市町村に比べ比較的恵まれているといえるが、近年の少子化傾向により年々入所希望者が減少してきており、現在は定員に対する入所希望者の割合は約70%となっている。

老人福祉施設については、特別養護老人ホームが常時入所待ちの状態、町集会所を増改築して開設した町社会福祉協議会運営のデイサービスセンターも、大賑わいとなっている。また、在宅介護支援も追いつかない状況にあることから、ヘルパーの確保が問題となっており、町の介護保険料も値上げを検討している。

6 町民所得・町財政

B町の産業経済は、基幹産業の農業生産は例年並みの収穫量だったものの、全国的な豊作により価格が低迷したことから、1人当たり町民所得は県平均(216万円)に比べ、171万円と著しく低くなっている。また、農閑期に副業的に従事していた土木工事等の雇用も公共事業削減により減少してきている。

地域の産業の衰退に加え、国の三位一体改革や県の財政改革に伴う補助金の見直しや廃止、交付税の削減などによって町の財政も大変厳しいものとなっており、経常収支比率(税などの一般財源を、人件費や扶助費、公債費など経常的に支出する経費にどれくらい充当しているかをみる指標)は95.9%(県平均92.0%)と、非常に窮屈な財政状況にある。

B町では主だった産業もなく、人口も減少傾向にあるため、自主財源に乏しい状況は今後も続くとみられる。さらに、今後は過去に建設した公共施設の維持管理費や高齢化の進行による社会福祉費等の公的負担の増加が見込まれるので、役場機構のスリム化や事業の見直しが必要となってくることから、効率的な行政運営を目指して行政改革プランを策定する予定である。

資料提供：青森県選挙管理委員会

〈ワークシート1〉 選挙公報作成ノート

グループ名 _____

氏名 _____

皆さん一人一人がA村の住人となって、それぞれの視点や発想による村づくりを考えます。そして、その発想をもとに村長選挙に立候補し、政策を主張するための選挙公報(原稿)を作成します。

1 A村の問題点

あなたが考えるA村の問題点や改善点について、分野ごとに記入してください。どんなに細かいものでもいいので思いついたら、記入しましょう。

【概況】

【人口・世帯】

【産業】

【基盤整備】

【村民所得・村財政】

【その他】

2 問題点の解決策

1で挙げた問題点や改善点について、具体的な解決策を書き出してください。

【概況】

【人口・世帯】

【産業】

【基盤整備】

【村民所得・村財政】

【その他】

3 理想とするA村のイメージ(スローガン等)

2で検討した問題点の解決策をもとに、あなたの考える理想のA村のイメージを描いてください。その際には、それぞれで検討した項目について順位をつけ、どのような項目を重視するのかを明確にしてください。

また、その姿を簡単に表現するような「スローガン」を考えてください。

4 政策

これまでの検討事項を基に、理想のA村にするための政策を立案してください。

【選挙公報イメージ】

4でまとめた政策をよりわかりやすく伝えるような、選挙公報のイメージを考えてください。実際に「キーとなるフレーズ」や「図・イラスト」等を割り付けるなど、できるだけ具体的なイメージを提示してください。

【グループ員(他のグループ)からの意見等】

話し合いを通してのグループ員(あるいは他のグループ)からの反応、自分の考えと同じ点や異なる点、疑問に思う点など、最終的に評価の参考となるような事項を整理してください。

☆A4判2枚

☆配布するシートは、□内の説明文を消し、書き込めるようにしてください。